

⚠ 注意

- オーバーフロー穴がありませんので、ご使用中はその場を離れないでください。
※漏水により家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。
- お湯の使用中に、他所の水栓の同時使用のないように、注意してください。
※圧力変動がおこり、湯温が急上昇して、ヤケドをする恐れがあります。
- フレキホースの差し直しをする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。
※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。
- 吐水口回転式の場合、圧力変動により流量が増え、上向き吐水時に洗面器の外に水が飛び出ることがあります。このような場合は、カウンター下の止水栓にて流量を絞ってください。
※家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

●本製品の仕様と条件

項目	吐水口回転式シングルレバー混合水栓	シングルレバー混合水栓	単水栓
圧力条件	0.07MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧)	0.05MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧)	
給湯温度設定		85°C以下	
使用環境温度	【一般地用】0~40°C 【寒冷地用】-20°C~40°C ※但し、内部の水を凍結させないでください。		
使用可能水質		上水	
給水給湯接続	Rp1/2	PJ1/2	

【混合水栓の場合】

ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合の給水圧力

	吐水口回転式シングルレバー混合水栓	シングルレバー混合水栓
最低必要圧力	A+0.1MPa(流動時)	A+0.07MPa(流動時)
最高圧力	0.75MPa(静水圧)	

測定条件は次の通りです。

- レバーハンドルは全開です。
- 給水温度5°C、吐出温度42°C（ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬期を想定）
- 給水圧力はガス給湯器直前における圧力です。
- ガス給湯器の設定温度は最高温度です。



貯湯式給湯器と組み合わせる場合の給水圧力

	吐水口回転式シングルレバー混合水栓	シングルレバー混合水栓
最低必要圧力	0.07MPa(流動時)	0.05MPa(流動時)
最高圧力	0.75MPa(静水圧)	

●給水圧力と湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力（0.20~0.34MPa）に減圧してください。
- 給湯器に蒸気は使用できません。
- 給湯温度は使用する最高温度より約10°C高く設定してください。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、**給湯器の設定温度は60°C以下**をおすすめします。

●施工前のご注意

取付けに必要な工具

- 取付には専用工具KG-23、または市販のソケットレンチ（呼び13）、KG-1またはKG-2が必要です。

止水栓を設けてください。

- 取付後の流量調節及び保守点検のために、必ず止水栓を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために**流量調節をしてください。**特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

その他の注意点

- 給水は上水道に接続してください。
※温泉など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- 商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
※工具をかける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- 必ず**配管中の異物を完全に洗い流してください。**

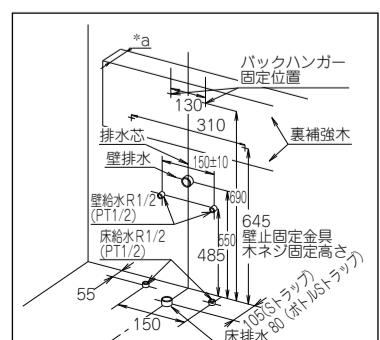
●施工方法

1. 給排水の位置決め、取出し

標準施工図に従って給水管・排水管を取り出してください。

注意

- 器具取付前に給水管、排水管内に異物が混入しないようにしてください。
- 給水管にはプラグ（LF-7T）、排水管にはビニール袋等でカバーしてください。
- 排水芯と陶器のセンターマークは合わせて施工してください。



注意

●強度確保のため、次のような補強をします。*a

〔木造壁の場合〕
補強板厚み27mm以上になるように補強木を設けてください。

〔コンクリート壁の場合〕
取付部の奥行は75mm以上（コンクリート厚40mm以上）を確保してください。

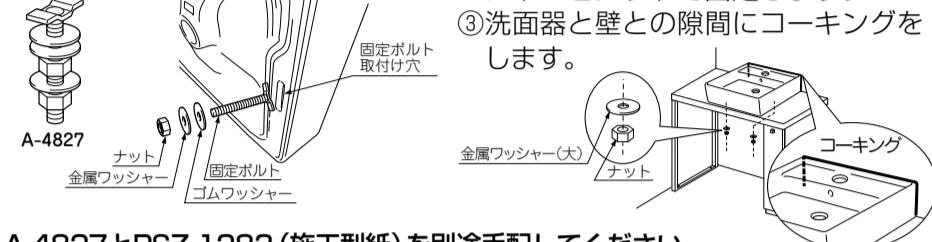
※AYボルト（AY-24(1P)：2本、AY-34(1P)：6本）は別途用意ください。
※重量が15キロ程度ありますので、補強が不十分だと陶器が傾き、鉢の中に水が残つたり、壁の間に隙間が発生する恐れがあります。

2. バックハンガーによる洗面器の取付け

【現場調達カウンター施工の場合】

カウンター仕様の場合は洗面器の施工前にカウンターを取り付けてください。

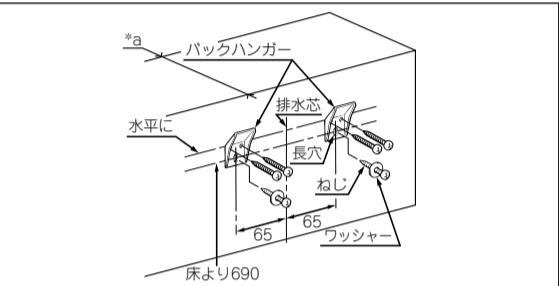
- ①洗面器に固定金具を取付けます。
- ②カウンターの下から洗面器をワッシャーとナットで固定します。
- ③洗面器と壁との隙間にコーキングをします。



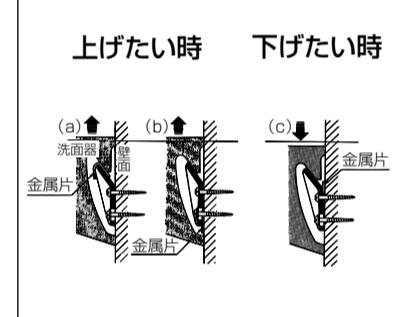
A-4827とPSZ-1283（施工型紙）を別途手配してください。
また、カウンターに設置する場合は、固定金具（SF-10E, LF-6L）は使用致しません。

【壁付の場合】

- 右記の壁面の所定位置に左右のバックハンガーが各々傾きのないよう、また、左右の高さが同一水平面にそろうよう正しく取り付けてください。



- 洗面器をバックハンガーに仮取付けし、洗面器を押え、左右の傾きやガタつきを確かめます。この場合もし傾きやガタつきのある場合は、金属片の小片をさがっている方またはガタつく方のバックハンガーの上面（図a）に折り曲げて当て、また陶器全体を上げたいときは、バックハンガーの下部（図b）に、下げたいときは上部（図c）に金属片をはさんで調節してください。



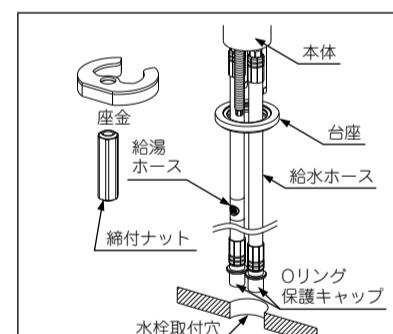
3. 水栓本体の取付け

【シングルレバー混合水栓の場合】

- 水栓本体に付いている締付ナット、座金を取り外し、給水・給湯ホースを水栓取付穴に挿入し、台座の中央にのせます。

注意

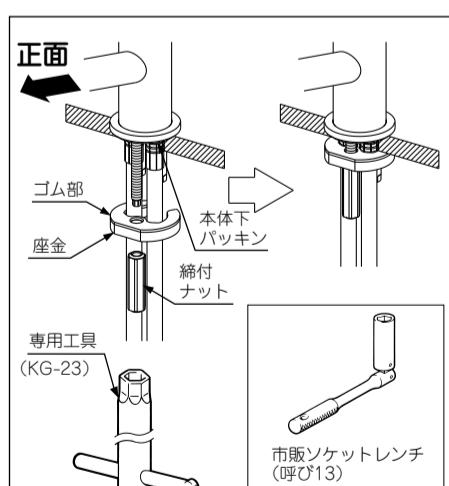
- Oリング保護キャップはソケットと接続するまで取り外さないでください。
※Oリングに傷がつき、漏水する恐れがあります。
- 施工中、本体を倒さないでください。
※陶器などを破損してケガをする恐れがあります。



- 吐水口を正規の位置に向けた後、専用工具KG-23にて締付ナットを締め付けて、陶器に固定します。

注意

- 本体下パッキンがずれないように注意してください。
※漏水する恐れがあります。
- 別売りの専用工具（KG-23）もしくは市販のソケットレンチ（呼び13）を使用してしっかりと締め付けてください。
※漏水する恐れがあります。



ポイント

座金のゴム部が水栓取付穴のまわりに密着するよう固定します。

確認

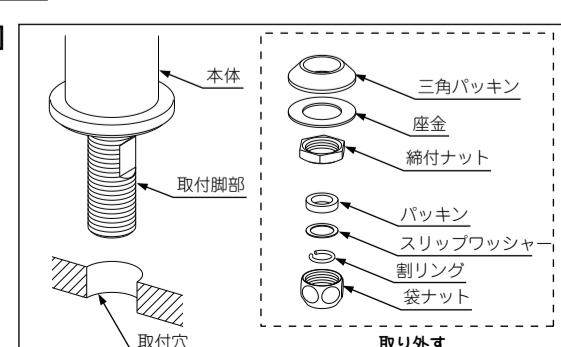
締付後、本体に浮き、グラつきがないこと。

【シングルレバー単水栓の場合】

- 水栓本体の取付脚部に付いている部品をすべて外し、本体を取付穴に挿入します。

注意

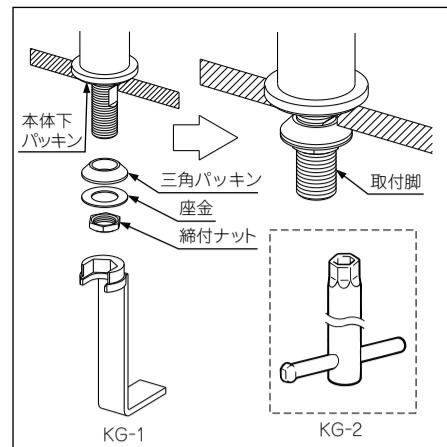
- 施工中本体を倒さないでください。
※陶器などを破損してケガをする恐れがあります。



②吐水口の向きに注意し、専用工具で三角パッキン平座金、締付ナットをしっかりと締め付けます。

注意

- 本体下パッキンがずれないように注意してください。
※漏水する恐れがあります。
- 工具は別売りの専用工具（KG-1もしくは、KG-2）を使用してしっかりと締め付けてください。
※漏水する恐れがあります。



ポイント

三角パッキンと平座金は取付穴裏面に当たるまで挿入してから、締付ナットをしっかりと締め付けます。

確認

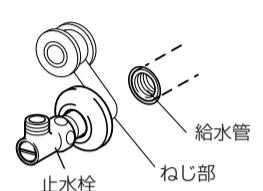
締付後、本体に浮き、グラつきがないこと。

4. 止水栓の取付け

- ①壁面（床面）の給水管に止水栓を取り付けます。

注意

ねじ部にシールテープ等のシール材を巻き付けてねじ込んでください。



5. 洗面器排水金具の取付け

(1) 排水金具の締付け

排水口のツバ下パッキンには、スポンジパッキンが使用しております。しかし、ねじ山をつたって漏水することが考えられますので図のようにシールしてください。上部にスポンジパッキン、下部に三角パッキンをはめて締め付けてください。この際締めすぎにならないよう注意してください。

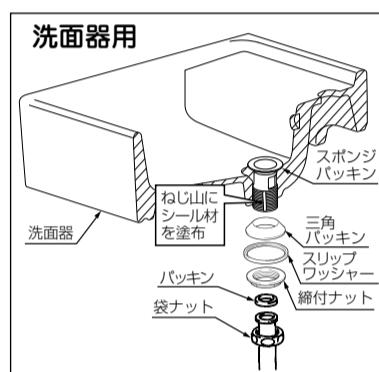
※排水金具が変形し漏水の原因になります。

注意

三角パッキンについたシール材が変色することがあります。

注意

シール材を必ず使用してください。カウンターに施工する場合は排水口を先に取り付けてください。



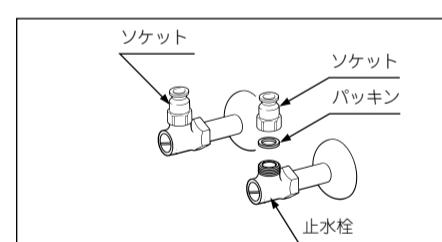
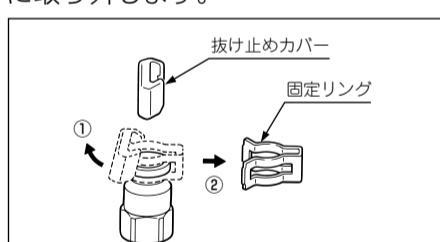
ポイント

排水栓に社名表示がある場合は、社名が手前に向くように取り付けてください。

6. 水栓本体と止水栓の接続

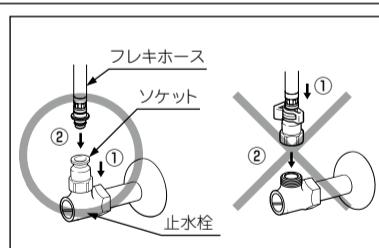
[シングルレバー混合水栓の場合]

- ①抜け止めカバー、固定リングの順 ②ソケットを止水栓に固定します。
に取り外します。



注意

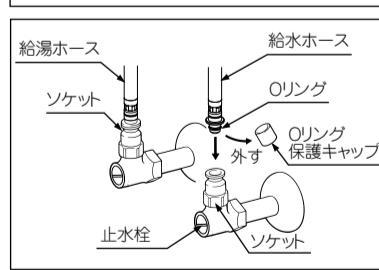
ソケットをフレキホースと先に接続してから、止水栓に固定することはおやめください。ソケットやフレキホースに無理な力がかかる場合があり、破損、漏水の原因となります。



- ③給水・給湯ホースのOリング保護キャップを取り外し、ソケットに差し込みます。

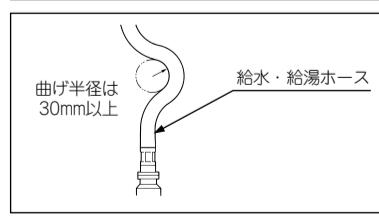
注意

Oリングにキズをつけたり、ゴミかみをさせないように注意してください。
※漏水の原因になります。



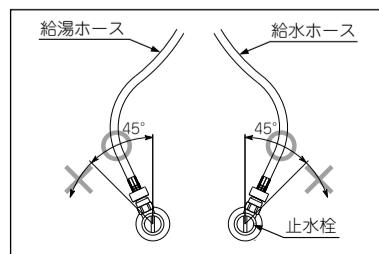
注意

給水・給湯ホースを曲げる場合は、曲げ半径を30mm以上確保してください。
※無理に曲げるとホースが損傷し、漏水の原因となります。



ポイント

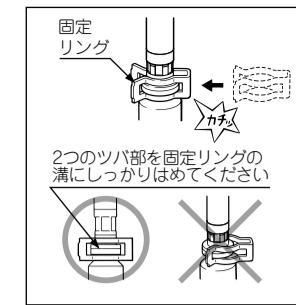
給水、給湯の取出位置によっては、止水栓の向きを図のように約45°以内で傾けて、給水、給湯ホースが無理に曲らないように調節してください。



④固定リングを給水・給湯ホースとソケットの接続部（ツバ部）にはめ込みます。

注意

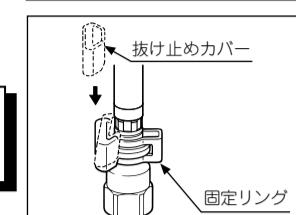
- 固定リングはしっかりとはめ込んでください。
※固定リングが外れると漏水の原因となります。
- 給水・給湯ホースを上に引き、確実に接続されていることを確認してください。
※漏水の原因になります。



- ⑤抜け止めカバーを固定リングにはめ込みます。

注意

抜け止めカバーを必ずはめたままにしてください。
※直接固定リングに手を触るとケガする恐れがあります。



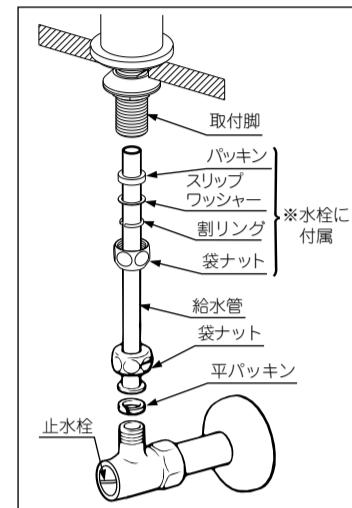
[シングルレバー単水栓の場合]

- ①取付脚への差込しろ（約20mm）を確保して、給水管（止水栓に付属）を切断します。
②給水管に袋ナット、割リング、スリップワッシャー（金属）及びパッキンの順序に組み付けます。

注意

止水栓に付属の袋ナットと、水栓に付属の袋ナットを混同しないでください。
※漏水の原因があります。

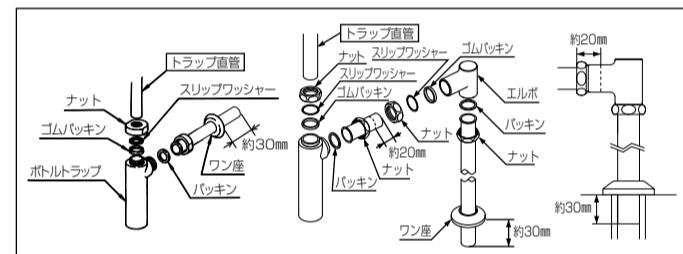
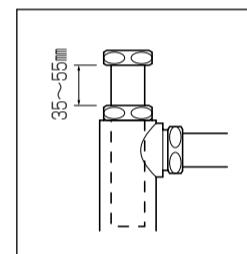
- ③給水管を取付け脚に約20mm差し込み、袋ナットははじめに手でいっぱいに締め付けてから、工具で3/4~1回転増締めしてください。
(締付けトルク10~15N·m[100~150kgf·cm])
④給水管の袋ナットを止水栓に固定します。



7-1. 排水管の接続（ボトルトラップの場合）

排水管の接続を行ってください。

[ボトルトラップ封水深の確認] [ボトルトラップの取付け]



注意

- トラップ直管は、絶対に切らないでください。
- 上図の寸法は35~55mmになっていることを必ず確認してください。
(この寸法範囲外の場合、正常な排水ができません。)
- ワン座のOリングがはみ出ないように注意しながら排水管に入れてください。
- エルボとの差込みしろは約20mm確保してください。

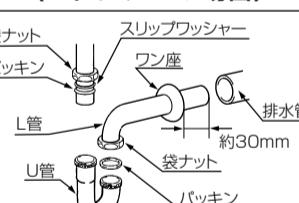
7-2. 排水管の接続（Sトラップ、Pトラップの場合）

排水トラップを仮付けして、L管またはS管を排水管との差込みしろを約30mm残して切断してください。

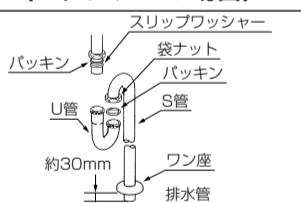
注意

トラップは施工完了図のよう、右向きになるようにしてください。

Pトラップの場合

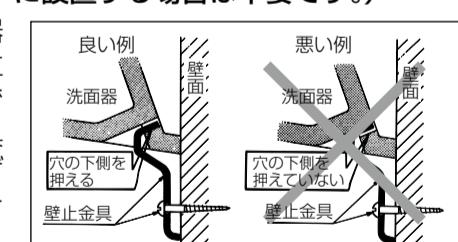


Sトラップの場合



8. 壁止金具の取付け（カウンターに設置する場合は不要です。）

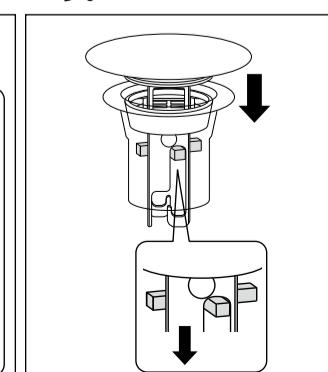
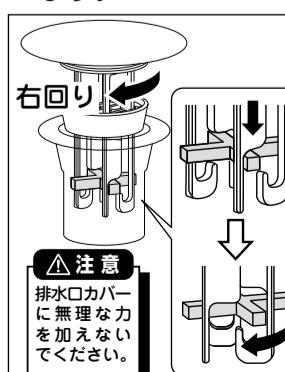
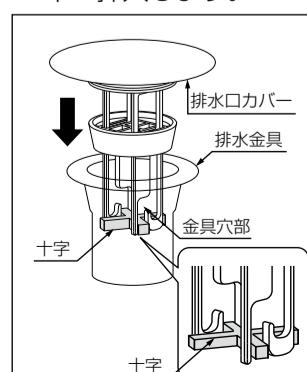
- ①壁止金具の湾曲している側を洗面器の取付穴に当てがい、木ねじ穴の位置を当り、案内穴をあけて木ねじで締め付けてください。この壁止金具は締め付けると、洗面器を引き下げる力が働きますので強固に取り付けます。



9. 排水口カバーの取付け方法

（排水口カバーなしタイプの場合は不要です。）

- ①排水口カバーの金具穴 ②排水口カバーを右回り 部を排水金具の十字の中へ挿入します。
にゆっくりと回転させます。
③排水口カバーを下に降ろして取付け完了です。



●施工後の確認と調節

1. 水出し確認

吐水口回転式の場合、吐水口は上下360°回転します。水出し確認は、吐水口が下を向いていることを確認してから行ってください。

※洗面器の外への水の飛び出しを防ぐために、横向きでは流量が減ります。

- ①水側・湯側の止水栓を全開にします。②レバーハンドルを水側、湯側で全開にします。



2. 整流口または泡沢口の掃除

- ①整流口または泡沢口を工具(スパナ(整流口:対辺17、泡沢口:対辺19))で取り外し、整流ユニットまたは泡沢ユニットを水で掃除してください。

シングルレバー混合水栓仕様の場合 [LF-E340Sタイプ]

●流量調節

吐水口先端には、節水吐出になるエコダイアルがついています。

水栓の機能を十分発揮させるために、湯と水の吐出量が同じで、かつエコダイアルが通常吐出のときに、湯、水各々が約6L/min(洗面器をいっぱいにするのに70秒程度)以下になるように必ず止水栓を絞ってください。

※吐出量が多すぎると、水はねや、節水吐出時にレバーハンドルでの吐出量調節がしつくくなる場合があります。

吐水口回転式シングルレバー混合水栓仕様の場合 [LF-X340Sタイプ]

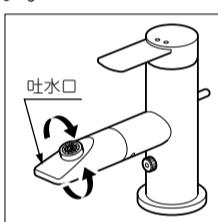
- この製品には定流量弁が入っていますが、水圧や洗面器の条件により、洗面器の外へ水が飛び出る恐れがあります。

- 以下の手順で流量を確認し、必要な場合は調節をしてください。

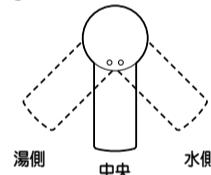
- ①レバーハンドルを閉め、水栓に掛かっている「流量調節タグ」を外します。



- ②水側・湯側の止水栓を全開にし、吐水口を上向きに回転させます。



- ③レバーハンドルを中央の位置でゆっくり開けます。



ポイント

吐水高さの確認には、流量調節タグをご利用いただくと便利です。

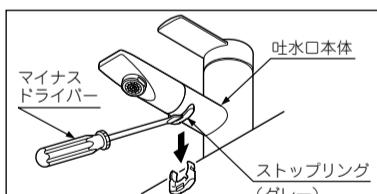
[吐水口回転式シングルレバー混合水栓の場合]

1. 流量が少ない場合の調節

- ①小型のマイナスドライバーでストップリングを外します。

注意

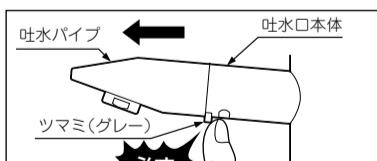
吐水口にキズがつかないように注意してください。



- ②吐水口本体裏のツマミを持って吐水パイプをゆっくり引き出し、定流量弁を外します。

注意

吐水パイプからガイドが外れないように注意してください。
※中の部品が外れ、紛失する恐れがあります。



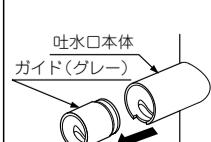
ポイント

定流量弁を手で外せない場合は、ペンチなどをご使用ください。

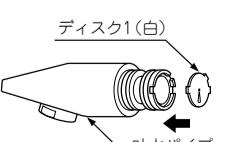


万が一、吐水パイプからガイドが外れてしまった場合は、下記のように組み付けてください。

1. 吐水口本体内に残ったガイドを取り出す。



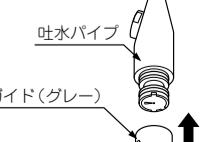
2. ディスク1を吐水パイプに組み付ける。



3. ディスク2をガイドに組み付ける。



4. ガイドを吐水パイプに組み付ける。

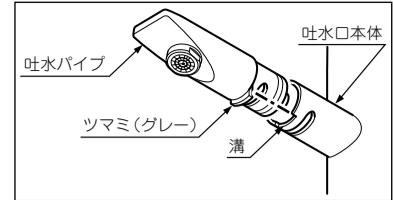


*ディスク2とガイドの凹凸を合わせる。

③吐水パイプを吐水口本体に差し込み、ストップリングを取り付けます。

ポイント

ガイドのツマミと、吐水口本体の溝がはまるように、吐水パイプを差し込んでください。



④レバーハンドルを中央の位置でゆっくり全開にし、吐水高さが120mm以下であることを確認します。

注意

- 吐水高さが120mmを超える場合は、定流量弁を元の位置に戻してください。

※洗面器の外へ水が飛び出します。



2. 流量が多い場合の調節

- ①水側・湯側の止水栓を閉じます。

- ②吐水口を上向きにし、レバーハンドルを水側の位置で全開にします。

- ③水側の止水栓をゆっくり開き、吐水高さが50~100mmになるように調節します。

ポイント

吐水高さの調節には、流量調節タグをご利用いただくと便利です。



- ④レバーハンドルを閉じ、吐水口を下向きにします。

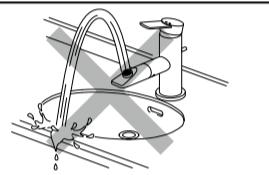
- ⑤レバーハンドルを湯側の位置で全開にし、湯側の止水栓を開き、水側と同じ流量になるように調節します。

- ⑥レバーハンドルを中央の位置でゆっくり全開にし、吐水高さが120mm以下であることを確認します。

注意

- 必ず吐水高さが120mm以下になるように、止水栓で調節してください。

※洗面器の外へ水が飛び出します。



●引渡前の確認

引渡前および故障時の点検は以下の要領で行ってください。

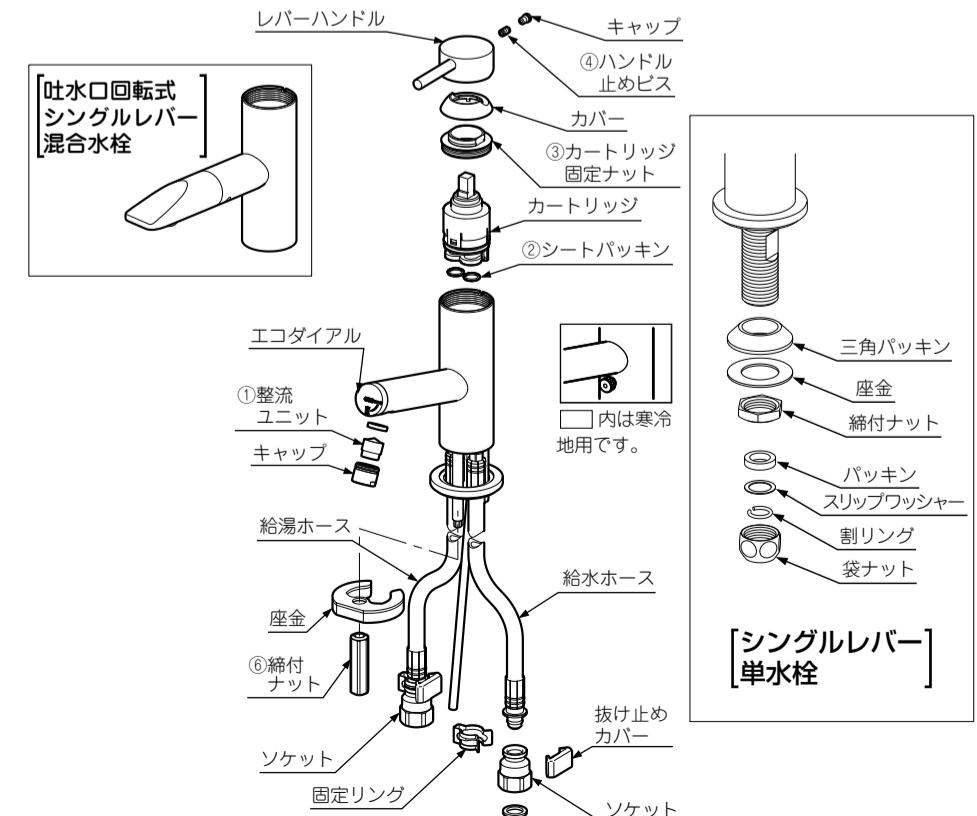
※エコダイアルは、通常吐出状態で引渡してください。

※この商品は、水を急に止めるときに発生する配管への衝撃をやわらげる機能が付いています。このため急に閉めようとするときハンドルが重く感じることがあります。故障ではありません。ハンドルが重くならないように、ゆっくりと閉めてください。

●故障と点検

※点検箇所は下図を参照してください。

故 障	点 検 内 容	点検箇 所	処 置
流量が少ない	圧力は十分か? 配管中に大きな抵抗はないか? 止水栓は十分開いているか? エコダイアルは、通常吐出状態になっているか?	一 一 一 一	「使用条件」の項参照。 抵抗となる障害物を取り除く。 止水栓を十分開く。 エコダイアルを通常吐出状態にする。
水が止まらない	エコダイアルは、通常吐出状態になっているか? 整流ユニットまたは泡沢ユニットのゴミ詰まりはないか? 吐水口は横に向いてないか? ゴミかみはないか? キズはないか? ゆるみはないか?	① 一 一 ② ③	ゴミ等を水で洗い流す。 吐水口は上向きまたは下向きで使用する。 ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。 カートリッジ固定ナットを締める。 締め過ぎるとレバーハンドルが重くなることがありますので注意してください。
希望の温度が得られない	圧力は十分か? 流量調節はよいか? 整流ユニットまたは泡沢ユニットのゴミ詰まりはないか?	一 一 一	「使用条件」の項参照。 「流量調節」の項参照。 ゴミ等を水で洗い流す。
ハンドルがガタつく	ゆるみはないか?	④	ハンドル止めビスをしっかりと締める。
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか?	⑥	締付ナットをしっかりと締める。
整流・泡沢キャップより水が漏れる	整流・泡沢キャップのゆるみはないか?	⑤	整流・泡沢キャップをしっかりと締める。
洗面器から水が飛び出す	流量調節栓はよいか?	一	「流量が多い場合の調整」の項参照。



この説明書は、必ずお客様にお渡しください。